

コンパス薬局横浜西スキルアップ勉強会 第161回『レイボー錠』

第一三共株式会社 野田 暁 様

2022.08.01 松下 武憲

参加者:佐々木、松下、岡田、番場、吉川、峯尾、大塚、山口

2022年に薬価収載されたレイボー錠は片頭痛急性期治療薬としては20年ぶりの新薬です。現在、片頭痛治療薬としては「アセトアミノフェン」・「NSAIDs」・「トリプタン製剤」・「エルゴタミン製剤」・「制吐薬」が存在しますがレイボー錠はセロトニン5-HT_{1F}受容体に作用して疼痛経路を抑制することにより片頭痛に対して治療効果を示します。

レイボー錠は心血管系に危険因子をもつ片頭痛患者の急性期治療薬として期待されており、トリプタン製剤が忌避される特殊型片頭痛や可逆性脳血管攣縮症候群の既往がある片頭痛に対する応用も期待されています。

【効能・効果】

・片頭痛

【規格】

・50mg 100mg

【用法用量】

- ・通常、成人にはラスミジタンとして 1 回 100mg を片頭痛発作時に経口投与する。
- ・ただし、患者の状態に応じて 1 回 50mg 又は 200mg を投与することができる。
- ・頭痛の消失後に再発した場合は、24 時間あたりの総投与量が 200mg を超えない範囲で再投与できる。

【禁忌】

・本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。

【主な副作用】

浮動性めまい、振戦、不安、動悸、回転性めまい、視力障害、霧視、悪心、嘔吐、疲労、無力症

【重大な副作用】

・セロトニン症候群、腱反射亢進、ミオクローヌス、筋強剛、神経・筋症状、発熱、頻脈、発汗、下痢、皮膚紅潮、自律神経症状、焦燥、錯乱、軽躁、精神症状

【薬剤交付時の注意】

・本剤投与により眠気、めまい等があらわれることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう十分注意すること。

・片頭痛の急性期治療薬の服用日数の多い患者において、頭痛が悪化する場合には、「薬剤の使用過多による頭痛」の可能性を考慮し、投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。

【考察】

レイボー錠はトリプタン製剤とは異なるセロトニン受容体に作用する製剤であり、血管収縮に影響を与えないので狭心症や心臓に持病がある片頭痛の患者さんでも服用できることがポイントです。

また、いままでのトリプタン製剤は頭痛が起きた際にすぐ服用しなければならないなど服用のタイミングが難しい薬でしたが、レイボー錠は片頭痛が起きた後に服用しても効果がある製剤なので仕事の都合や生活スタイルに合わせて服用することができ片頭痛の治療薬としてかなり使いやすい薬であると言えます。

ただ、眠気・めまい等中枢性の副作用が現れる可能性が高いので投薬時に注意して指導する必要があるとも感じました。

【質疑応答】

・車の運転や機械操作等は避けたほうがいいのか？

→眠気・めまい等現れる可能性があるため車の運転・機械操作等は従事させない。

・投与回数に制限はあるのか？

→1日200mgまで可、それは50mg4錠でも100mg2錠でも構わない。

・100mgで効果があった気がしない患者に200mgを服用させてもいいか？

→片頭痛が少しでも良くなったのであれば200mg服用させてもよい。